（別紙4-1）

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0170501076		
法人名	医療法人　愛全会		
事業所名	グループホーム　こがね虫の家		
所在地	札幌市南区川沿13条3丁目3-10		
自己評価作成日	令和5年3月30日	評価結果市町村受理日	令和5年6月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0170501076-00&ServiceCd=320

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

「こがね虫の家」は、入居者さまの歩んできた人生を尊重し、これからもその人らしい暮らしを支援します。「寄り添い、支え合い、共に生きる」を理念に掲げています。
コロナ渦で外出活動等の制限はございますが、感染対策を行いながらドライブツアー等の外出行事や、館内での季節毎の行事を行っています
ご入居者さまの自己選択、自己決定をする場面が多く持てるようケアにあたっています。
SNSを使用してのご家族さまとの情報提供（テレビ電話・写真・動画を等）も好評を得ております。
近隣に同法人の特養、幼稚園、病院があり。季節毎の行事に参加して地域との社会的交流が図りやすく、医療との連携も迅速に行えます。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4　高砂サニーハイツ401
訪問調査日	令和5年5月31日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所は最寄りのバス停から近く、周辺は食事処、スーパー、コンビニ、公園、母体の医療機関がある住宅街の一角に位置している。併設の事業所とは敷地内にある広い庭を共有し、テーブルセットやベンチを並べ、利用者にとって憩いの場となっている。また、合同の避難訓練や景勝地への外出など相互に心強い存在となっている。面会も制約がある中、個別に利用者の様子をSNSで発信し、リアルタイムの動画など家族に感謝されている。運営推進会議は、利用者状況や行事内容、事故報告に加え、統括事業室の取り組み等を議事録に載せ、推進委員や家族に届けている。町内会長、家族、地域包括職員から意見や情報、協力の申し出が寄せられ、利用者のみならず職員も支えられており、良好な関係を構築している。コロナ禍収束の際には、地域や家族との交流、外出行事等を検討しているので、その実行に期待したい。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	共有スペースに理念を掲げ、職員は出退勤時等に確認をしています。定期的な研修で理念に基づいた介護サービスが提供できる体制を整えています。	法人の理念と行動指針を事業所理念とし、さらに令和4年度の目標「寄り添い、支え愛、共に生きる」をケア理念としている。特にケア理念は、職員の決意であり意識して利用者と向き合い、会議で実践の確認を行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入。敬老の日等には近隣の保育園の園児や町内会の方がお祝いに来てくださる。広範囲に相互交流を深める取り組みを行っています。	コロナ禍においても、町内会長は利用者の白寿の祝いに来訪し、近くの保育園児はハロウィンに顔を見せ利用者を笑顔にしている。資源物回収の協力や住民からの質問には丁寧に対応している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ渦でなければ地域行事に参加する、ホームの行事に参加頂く等の相互交流の場に於いて認知症の方を身近に感じとって頂き、運営推進会議では、認知症についての情報提供を行っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に一度の会議には、町内会役員・入居者家族・地域包括支援センター職員・事業所職員を構成員とし、意見や情報の交換を行い、サービス向上に活かせるよう努めています。	会議は書面と対面で行われ、利用者状況、行事内容、事故や感染症の有無と統括事業室からの報告等を議事録にして推進委員や家族に配布している。町内会長や地域包括職員、家族、利用者から意見や情報、協力の申し出が寄せられている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者は、札幌市主催の管理者会議や南区の管理者連絡会議に出席しています。愛全会GH事業室では、市担当者と情報を交換しながら、サービスの質の向上に取り組んでいます。	スムーズな運営の一環となる行政との連携は、管理者や統括事業室がそれぞれの役割を担っている。運営推進委員である包括職員とは事業所の実態を共有し、保健所とはコロナ禍関連の情報共有に加え、必要物品が届いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束についての研修会に参加し、都度その研修内容を全職員に周知徹底しています。毎月、身体拘束チェックリストを活用しケアに取り組んでいる。	入居時に、今後起こり得る危険性について書面で説明している。職員は、定期的な適正化委員会と研修会で接遇のあり方を正しく理解し、その学びを生かして利用者と関わっている。センサー使用時は毎月検証し、年2回自己チェックリストで自身のケアを確認している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	定期的に全職員を対象とする研修会を行っています。今年度は虐待防止指針の更新、職員間のアンケートを実施。学びを深め虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	契約書の内容はきちんと説明し、ご納得頂いた上で、署名・捺印をして頂いています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の内容はきちんと説明し、ご納得頂いた上で、署名・捺印をして頂いています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置し、来訪者に意見やアンケートを記入して頂く為の準備をしています。年に一度、ご家族様にはアンケートをお願いし、改善点がある場合は真摯に受け止め改善に取り組んでいます。	利用者個々の様子はSNSを利用し、TV電話や写真、動画で家族に届け好評を得ている。面会は主に窓越しだが、利用者の状況により居室での面会が行われている。利用者からの外出希望には広い庭で気分転換に繋げている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度のカンファレンスの際に、全職員が意見交換や話し合いを行う場を設けています。管理者は日々の業務の中でも、職員からの意見や希望を聞き、反映させています。	職員は、定期的な申し送りや会議等で、意見や提案を述べており、管理者は、迅速に対応して業務改善に生かしているが、困難であれば統括事業室の指示を仰いでいる。年2回人事考課による三者面談（法人、管理者、職員）でも、職員は公私にわたる要望等を伝えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回の自己申告書の提出の際に、意見や希望を述べる機会があり、面談を行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は年間計画を立て、多方面の知識が得られるよう、全職員を対象に開催されています。リーダー研修を含め、外部で行われる研修にも参加でき、働きながらトレーニングできる環境が作られています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	南区管理者連絡会議や法人内のグループホーム管理者連絡会議、研修、実習生の受入れ等を行い、サービスの質を向上させる取り組みを行っています。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のご本人との面談やご家族を含めた見学の際の聞き取りを含め、ご本人の希望や要望をきちんと聞き、安心して生活して頂けるような関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	こまめに連絡を取り、日々の生活の様子等をお伝えする。その会話の中から、要望や希望を聞き取り、より良い関係を作って行ける様、努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始にあたり、きちんと話し合いを行った上で対応するよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事を続けていただけるよう、日々の生活の中での共同作業の場を設けるよう心がけ、支え合える関係を築いています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の思いに寄り添いながら、日々の生活の出来事や気付き等を毎月のお便りでお知らせしています。行事に一緒に参加して頂くことで楽しみを共有したり、家族と同じような思いで支援している事を伝えるようにしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ渦の感染防止対策の為、窓越しでの面会やSNS等を使用して支援しています。	誕生日に居室で家族から長寿の祝いを受けている事例がある。馴染みの場所に行けない代替として「行ったつもりツアー」と称して、ユーチューブで景色を流している。家族から、お孫さんの運動会の様子を動画で送って頂き、利用者と一緒に視聴している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は入居者の認知症状や病状の情報と知識を共有し、個々に注意深く見守るようにしています。その上で、座席や環境を整え、入居者同士が関りを持てるよう支援に努めています。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も年賀状や季節のご挨拶を郵送するなど関係を継続し、その中でフォローや相談支援に努めています。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は入居者個々に応じた声掛けをしながら希望や意向の確認	利用者一人ひとりの生活歴や思考等を踏まえ、根底にある思いの汲み取りに努めている。個別の記録や家族からの情報、職員の五感による気付き等を参考にして、利用者が満足できるよう職員間で話し合っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者本人が語る言葉や、家族・友人との関わりの中からの気づきの他、ご家族への聞き取り等でこれまでの経過の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の出来る事を見出し、積極的なお手伝いへの参加を促すなどで役割を持ちながらADLの維持や生活力の見極めに努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の気づきや身体状況、本人や家族の希望等を勘案して担当者が原案を作成し、カンファレンス時に職員全員で検討、訪問診察医や訪問看護師とも意見交換しながら3ヶ月毎に見直しています。	介護計画は、日々の関わりから利用者や家族の意見を把握して更新時や状態急変時に立案している。現計画書の評価や課題分析、医療関係者の意見を踏まえ、利用者や家族の思いに添える支援目標になるよう協議している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らしの様子や、本人の言葉、体調や状態変化を個々の生活記録や申し送り表に記入し、職員間の情報共有をしています。また、それをもとに毎月のモニタリングや3ヶ月評価を行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が遠方の方の受診や買い物の代行等、柔軟な支援をしています。調剤薬局による居宅療養管理指導を利用しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者が安心して地域での暮らしを続けられるよう、民生委員や町内会役員と意見交換する機会を設けています。町内会主催の行事や新年会への参加を積極的に行っています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の訪問診察や都度の電話相談、月に4回の訪問看護師による健康相談を行っています。	定期的に訪問診療を受けている利用者や馴染みの医療機関への外来受診など、本人や家族の意向を尊重している。週1回、訪問看護師による健康チェックや法人の看護職員との情報共有もあり、早期受診に繋げている。	

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護師による健康相談では医療面の相談・助言を行っています。その他かかりつけ医の看護職員とこまめな情報交換や相談を行い、入居者に適切な受診や看護を受けることができる支援をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関の相談員と連携しながら、ご家族からの情報やご本人との面会を行い、治療の方向性や早期退院に向けた話し合いを行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合に於ける指針を作成しており、利用開始時説明し、同意を得ています。状況に応じて医師・家族・本人と相談し、方針を共有して本人の希望に添った支援を行っています。	終末期の意向は、入居時や関わりの中で聞き取っている。これまでも医療従事者や家族と情報を共有し、看取りが行われており、職員は積み重ねてきた知識や技術を持って、尊厳ある最期のケアを遂行している、	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアル等を作成常備し、日々閲覧可能な状態にしています。また、内外の研修等で実践力の習得に努めています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練、避難訓練を夜勤想定で年2回実施しています。消火栓の除雪等を行っています。	年2回、地震を含む夜間想定の火災避難訓練を併設の事業所と合同で実施し、さらに毎日、防災・防火に向けて危険箇所を点検している。元消防士である法人職員の指導で行われ、訓練後に表出された課題点は次回の訓練に生かしている。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	過去の生活背景を入所時に伺い、尊厳やプライバシーを重視した言葉遣い・態度・表情を常に意識した対応を心掛けて対応しています。	入居時に個人情報保護に関する基本方針を説明し、実践に努めている。研修で適切なケアについて学びを深め、管理者始め職員間でも注意し合い、利用者のみならず周辺の人達も不快にならないよう心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者との対話を大切にし、会話の中から本人の思いや希望を聞き取り、実現できるよう働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人一人の自己決定・自己選択の機会を確保し、希望やペースに応じた過ごし方を支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の生活習慣に合わせた支援をし、家族の協力も得て季節ごとの衣類や靴の用意を行っています。訪問美容室の利用も取り入れています。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付け・配膳の他、下ごしらえ等も一緒に行っています。食後のテーブル拭きや茶碗拭きもお願いしています。	献立は法人の管理栄養士が系列事業所の要望を取り入れ作成し、食材は業者に依頼している。利用者と食事の準備をし、会話をしながら食しており、月1回のお好み弁当は、誕生日や行事に合わせて食卓に上げ、利用者の楽しみ事になっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の指導もあり、栄養バランスの取れた食事、食事や水分の摂取量は個別にチェック表へ記載し、入居者の状況に応じて過不足ないよう支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施、就寝前の義歯洗浄・消毒を毎日行っています。訪問歯科と連携を取り、定期受診しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、個々の排泄パターンの把握、トイレ誘導時のさりげない声掛けを行い、支援をしています。	排泄はベッド上での支援もあるが、半数の利用者は自身の意志でトイレに向かっている。家族から衛生用品使用の提案があっても職員間で協議し、ぎりぎりまで現状維持に努めている。職員の努力により、複数の利用者は布下着の着用が可能になっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	こまめな水分補給を行い、毎朝の体操や食事の工夫をしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望に合わせて、いつでも入浴できるように準備を整えています。準備や支援の際には本人馴染の会話等で楽しい雰囲気作りをしています。	入浴は週2～3回を目安に、利用者の意向で毎日入浴や一人で入浴など色々だが、状態によっては浴室や脱衣所を暖めシャワー浴支援もある。入浴時は、身体状況の確認、利用者から昔話や歌が聴ける貴重な時間となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、生活のリズムを整えるよう努めています。また、食後の休息を取り入れ、心身の安定を保っています。夜間は定期訪室により室温、布団のかけ直し等の確認業務を徹底しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方内容を把握し、申し送りの際には体調の変化を見逃さないよう、情報共有を徹底しています。服薬マニュアルに添って誤薬防止に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な仕事や趣味を活かし、日々張り合いのある生活を支援しています。毎日のレクリエーションは、合唱や工作・かるた・ゲームで楽しみながら気分転換をして頂いています。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の希望や体力に配慮し、日常的に買い物や散歩に出掛けています。（今年度はコロナ流行の為未実施）近隣の公園やドライブツアーを実施。	コロナ禍により自由な外出は自粛しているが、利用者と連れ立って玄関前や庭での日光浴、近くの公園まで散歩に出かけている。800本近くの桜が植えられている景勝地に併設の事業所と合同で訪れている。	今後、感染症状況を見極め、コロナ禍以前の自由な外出を徐々に実現できるよう検討しているので、その取り組みに期待する。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の際にはお店のレジでの支払をお願いしています。ご本人が希望される場合はご自身のお金を持って買い物に出掛け、支払いをお願いしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	申し出があった場合はいつでも対応支援し、ご家族へ電話をかけて頂いています。ご本人がご家族宛てに書かれた手紙は、おたよりを送付する際に同封し、ご家族へ送っています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関から食堂・リビングへ続く共用空間には季節ごとの写真や絵画、お花等を展示し、ゆったりと明るく居心地の良い空間作りに努めています。廊下や玄関にも椅子を配置し、思い思いの場所で過ごせる様工夫しています。	広い庭には、テーブルや椅子、ベンチを設置して気分転換を図るなど、職員は利用者が快適に暮らせる環境作りに努めている。リビングには鯉のぼりなどの季節飾りや母の日に届いた花籠等が穏やかな雰囲気を漂わせている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングから少し離れた場所に椅子とテーブルを用意し、独りになれる空間を作っています。食事やティータイム、レクリエーションの際には気の合う同士で座って頂く工夫をしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自身の家具や衣類等、使い慣れた馴染のものを使用して頂き、居心地よく生活できるよう配慮しています。ご本人が安らいで生活出来るよう、ご家族からの情報も参考に空間作りを工夫しています。	居室の広さに多少差があるが、クローゼットを備えている。利用者は整理タンスやTV、仏壇、パソコン、愛読書等を身近に置き、安心感ある設えになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	得意なことや残存機能を生活に生かせるよう、職員一同心掛けています。共用スペースには手すりを設置し、ご自身で気の向く場所へ安全に移動できるよう配慮しています。		